会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（３）職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通的基盤整備の推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回共通基盤整備事業実施委員会 |
| 開催日時 | 令和3年7月12日（月）　10時00分～12時00分 |
| 場所 | オンライン開催 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾 委　　　員：五十部　昌克、岡村　慎一、松田　義弘、山根　大助、増子　卓矢、谷　昌一、川越　浩　　　　　　　　計8名　　　　　　　　請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計9名 |
| 議題等 | 1. 事業リーダー挨拶（高岡）

・今年度よりリーダーが五十部先生に変わったが、会議体制も変え、今まで以上に多くの方に参加いただくことになることもあり、皆さんの力を借りながら進めていきたい。1. 事業計画の概要（岡村）

・「専修学校における自己点検・評価の結果の相互検証、共通的評価基準モデルの開発と運用」として今年度は2年目となった。・本事業の最終着地は、自己点検・評価を職業実践専門課程として各校実施しているが、さらに第三者認証も含めて共通基盤としてのプラットフォームとするために、再度自己点検・評価の仕様、第三者評価認証機関の評価項目を網羅的に見直し・確認した上で、差異の洗い出し・情報公開をし、皆さんが使いやすいようにすることが必要であり、昨年度は各評価項目の調査を実施し、整理・統合した。・今年度は、第三者評価認証機関の調査・整理を行いながら、どんな評価項目・基準で実施すれば専門学校の質向上になるか、提案をしていけるように進めていく。さらにこれらを普及・促進するために、学校では内部監査員、第三者評価機構では審査員などの人材を育成するためのカリキュラムモデルの標準化の実証・提案をしていく。・本事業での受託団体、私立専門学校等評価研究機構、専門職高等教育質保証機構QAPHEと年に3回程度文科省を交えて情報交換会を行いながら進めていく。先方は今年度終了となるので、先方の成果を統合し、最終的な成果を文科省に提案することになる。最終的には第三者認証の横断的なプラットフォームを公開できるコミュニティを作りたい。【意見等】・他受託団体との情報交換会は、ヒアリング調査とは別ということか。（五十部）　→別。当方の事業の進捗状況、方向性が受託当初と差分がないかどうか相互に精査、また先方の成果を共有いただき、それを盛り込んだ形で進める。東京都は国際通用性、経営的な基盤を包括した認証基準を考えており、また文科省は職業教育マネジメントを含めた共通的なエクセレントの評価を模索しているので、それを私共から提案できればと考える。（岡村）1. 昨年度までの実績と今年度目標（五十部）

・麻生塾の林先生がリーダーだったが、今年度より引き継いだ。皆さまの協力を得ながら事業を成功させたいと考えている。・令和2年度については、第三者評価はアンケート調査の実施、自己点検・評価標準モデルはプロトタイプを作成した。・調査の内容として、自己点検調査アンケート、自己点検・評価表の調査として全専研加盟校へ自己点検評価表及びエビデンスの回収、第三者評価調査アンケートとして職業実践専門課程認定校1032校へ実態調査、第三者評価実施校の実態調査ヒアリングが行われた。・そのアウトプットとして自己点検・評価標準モデル「共通的評価基準モデル2021」を開発した。・今年度の目標としては、自己点検・評価標準モデルの検証、ブラッシュアップして完成版の開発、第三者評価では、認証機関への聞き取り調査を行い、認証モデルプロトタイプ版の開発。また、学内監査・推進者育成のための実態調査を行い、翌年の学内監査・推進者育成プログラム開発に繋げる。1. 昨年度実績の詳細報告（五十部）

・自己点検・評価アンケート、第三者評価アンケートを行った。・自己点検・評価については9割の学校が毎年実施していた。評価対象時期は前年度分が7 割弱、当年度分が 3 割となった。取組についてはほぼ満足しているが、エビデンスの不足については学校間でばらつきがみられた。また内部向けには役立っているが、外部に対しては役に立ってはいるがさらに取組が必要という評価が多く見られた。・第三者評価アンケートは、調査対象校の8 割弱が実施したことがなかった。また、責任者・担当者に対する研修は半数近くが行っていなかった。このような結果を踏まえて、育成プログラムの作成が検討された。第三者評価を継続しなかった理由としては、人員の不足、推進できる人材の不足、意義が理解されていない、メリットが無いなどの回答があった。・第三者評価を受けている学校がどの様に第三者評価を役立てているかヒアリング調査を実施した。質の向上にどのように役立てているか、外部への説明に役立っているかなど好事例も収集されたが、逆に制度面など要望など不満に感じている部分について聞き取りが出来たので、それらを伝えながら第三者評価機関のヒアリング調査に役立てたい。【意見等】・第三者評価のメリットとして補助金などが考えられるが、その辺は現状どのようになっているのか。（高岡）　→文科省としての働きかけは見られるが、本事業でエビデンスを元にした実質的なメリットを打ち出していけると良いと考える。（岡村）1. スケジュールと役割分担（五十部）

・実施委員会は7月、9月、10月、12月、2月の5回、運営委員会は3回で8/2の岡山開催でキックオフ。■スケジュールについて(1)昨年度開発した標準モデルプロトタイプの検証と完成版開発　①標準モデルは1章～11章まで、各章15校程度の集計するため、担当できる章の調整　②検証担当校は、担当する章の「カテゴリーA、B、C及びS,Q,J」項目すべてに回答。リハビリテーション教育評価機構の評価基準の検証可能校の選定　③7月中に依頼文を各校宛て発送、8月から9月末にかけて回収　④8月のアセスメント開始までに標準モデルに対する「評価項目」の作成。リハビリテーション教育評価機構の評価基準の入手　　評価項目の原案作成：→原案意見調整はSlack上で実施　⑤アセスメント開始、回答は9月末までに回収、10月初集計　⑥10月実施委員会にて集計結果を報告・評価案を報告し修正事項　⑦11月運営委員会にて結果及び評価案を報告、討議　⑧12月実施委員会にて標準モデル（完成版）の進捗状況把握・中間評価　⑨2月合同委員会までにアセスメント結果を反映した標準モデルの完成・報告(2)第三者評価に関する実態調査①7月末目途に実態調査項目の整理作成②8月運営委員会にて実態調査項目の調整及び調査担当者の割振り③各認証機関へ調査趣旨の説明と協力依頼、窓口担当者の紹介依頼④窓口担当者と日程調整、正式な依頼文発送（(5)育成プログラム調査と同期）⑤各認証機関へ実態調査（(5)学内監査・推進者育成プログラムと同時調査）、10月末目途⑥10月実施委員会にて集計結果及び集計の進捗確認と途中評価⑦実態調査結果を集計→11月運営委員会にて報告・討議(3) 第三者評価スタンダード認証モデルプロトタイプ版（仮称）開発　①(2)実態調査結果を踏まえプロトタイプの開発　②①の一部として、プロトタイプに対する評価項目を同期して作成し(4)アクションリサーチに反映　③12月実施員会にて認証モデルプロトタイプ及び評価項目の中間報告・評価(4)第三者評価スタンダード認証モデルプロトタイプ版（仮称）アクションリサーチ　①(3)で作成した認証モデルプロトタイプ（一部）を(3)②の評価項目にてアクションリサーチ　②アクションリサーチ対象校は12月実施員会にて調整・依頼、会員校から3校程度予定(5) 学内監査・推進者育成プログラムプロトタイプ版（仮称）アクションリサーチ　①7月末目途に「育成プログラム」の調査項目の整理作成　　　　　　　②8月運営委員会にて調査項目の調整及び調査担当者の割振り　③各認証機関へ調査趣旨の説明(ここでの訪問予算は無し)と協力依頼、窓口担当者の紹介依頼　④窓口担当者と日程調整、正式な依頼文発送（(2)認証機関実態調査と同期）　⑤各認証機関へ実態調査（(2)第三者評価認証機関実態調査と同時調査）、10月末目途　⑥10月実施委員会にて集計結果及び集計の進捗確認と途中評価　⑦調査結果を集計→11月運営委員会にて報告・討議⑧人材育成プログラムプロトタイプ版作成に向けて意見集約【意見等】・量的にやることが多いと感じるがどうか。（高岡）　→多い、実施していくにあたり相当な労力がいるとも感じているので、開発等委託を検討したいと考えている。（五十部）　→学内監査は昨年度から案があったか。（高岡）　→前任の林先生からは昨年度の引継ぎとして受けている。昨年度の調査で必要性が裏付けられた項目と認識している。（五十部）　→学内監査に関する調査は第三者評価の調査と並行して行うので、集計後次年度に持ち込む。学内監査・推進者育成の研修プログラムの普及のための裏付けと考える。詳細に分けているので確かにボリュームが大きく見えているが、調査・アクションリサーチ・プログラム開発の3項目。プログラムはゼロから作成するわけではない。調査集計など委託し進めて行ければと考える。（岡村）・自己点検・評価標準モデルの検証校は、委員メンバーの学校だけでは偏りが出る可能性があり、昨年度調査に協力いただいた学校（49校・24法人）に検証も協力いただけるか打診し、協力いただける学校に章の割り振りをして検証を進めたほうが良いと考える。（岡村）　→同意。（全員）　→体制整備事業と自己点検・評価は密接に関わってくるので、情報共有という意味でも、体制整備事業の委員メンバーの学校に協力を依頼してはどうか。（飯塚）→昨年度協力校と委員メンバー校に、調整しながら依頼する。（五十部）・実施方法については評価する際の学科数などどのような想定をしているか。（山根）　→全て網羅しなければいけないという調査でなくても良い。依頼する際に学校、学科、分野など単位はどちらでも良い。しっかりエビデンスが取れていればそれで良いと考える。評価鑑定や不明瞭点をフィードバックいただける調査ができると良い。（岡村）■担当について・（1）標準モデルの検証…谷　（2)・(3)・(4)第三者評価について…五十部・山根　 (5) 学内監査・推進者育成プログラムについて…松田・各メンバーは相談後調整→7月末目途としている第三者評価に関する実態調査は五十部担当、学内監査・推進者育成プログラムプロトタイプ版アクションリサーチ項目は松田先生担当とする。（五十部）【意見等】・調査依頼はいつ頃どのように作成するのか。（岡村）→昨年同様にスケジュールを確認しながら進める。第三者評価に関する実態調査は調査項目が決まり次第岡村先生から各機関にコンタクトを取っていただきたい。（飯塚）1. スケジュール（飯塚）

・第2回実施委員会は8月25日（水）10時～12時。開催は対面＆オンライン開催併用を予定する。開催地は決まり次第連絡する。・7月末目途作成の調査項目、実施について最終調整。 |
| 配布資料 | ・令和3年度事業計画書・共通基盤整備事業\_実施委員会資料\_20210712・令和2年度成果報告\_共通基盤整備事業 |

以上